
エ. ウェストミンスター信仰告白書の現代的 有用性

1970年代以降のウェストミンスター信仰告白書に対する議論は、スコラ神学と関連されることでした。ウェストミンスター信仰告白書にスコラ神学の影響が見られるとは、教理を叙述するに当たって論理の使用によることでした。しかし、ウェストミンスター信仰告白書のスコラ神学の可否に対する議論は、ウェストミンスター信仰告白書の作成において政治、社会的、そして神学的背景によってなったことを看過させてしまいます。ウェストミンスター信仰告白書の現代的適用のためには、その歴史的な背景と神学的背景をさらに調べるべきです。それは、英国国教会に対する改革を目的としたものとして、スコットランド、アイルランド、英国教会が共通的に使用することができる最も純粋な改革信仰の告白書を作ることでした。そして、その告白書は外国の改革教会の信仰告白と一致するものであるべきでした。このような背景から、ウェストミンスター信仰告白書は、改革神学内で折衷された告白書でした。そうでありながら、同時に改革神学の範疇から逸れた、あるいは、誤り等々に対する警戒も明確に持っていました。

このような状況の中で作成されたウェストミンスター信仰告白書は、改革神学の共通的な主題などを扱うだけでなく、聖書、神の聖定、神の契約、救いの過程、キリスト者の自由と教会の自由のような特定主題を扱いながら、同時にローマカトリック主義、アルミニウス主義、道徳律廃棄論主義、ソツィーニ主義と同じような誤り等々を論駁しました。このように、ウェストミンスター

信仰告白書の特徴は、靈的に無知な者を目覚めさせるための用度にも十分です。

その上、ウェストミンスター信仰告白書自体が持っている、誤りに対する論駁によって、重要な教理などの正確性と明白な内容を得るのに有用です。勿論、ウェストミンスター信仰告白書が論駁した誤り等々は、21世紀の教会の中でもやはり存在しているので、ウェストミンスター信仰告白書は、ただ17世紀の歴史的文書で終わるのではなく、今日も教理的分別のためにも、やはり有用です。

このようなウェストミンスター信仰告白書の有用性については、歴史の中で続けて主張されてきました。ウェストミンスター総会200周年記念大会(1843年)で、リース・ハーパー (Leith Harper) 教授は、ウェストミンスター信仰告白書の有用性を述べました。彼は、ウェストミンスター信仰告白書は、包括的でありながら簡潔で正確だとしました。また、必須的な真理と神学体系の確かな原理等を見せてくれるとも述べました。⁷⁵そして、ウェストミンスター総会と標準文書250周年(1897)大会でも、ロバート・ダブニー (Robert Dabney) は、ウェストミンスター信仰告白書が、プロテスタントの歴史の中で最も安全で、詳しい信仰告白書として今日もやはりその価値が高いとしました。⁷⁶さらに、ウェストミンスター総会350周年大会で(1993年)、サミュエル・ローガン (Samuel Logan) は、ウェストミンスター信仰告白書は最高点に到達した改革神学信仰告白書だとしました。⁷⁷ウェイン・スピア (Wayne Spear) も、ウェストミンスター信仰告白書は作成されて350年が過ぎたが、最高の信仰告白書だとしました。⁷⁸

75 Leith Harper, *"The Use and value of Subordinate Standards" in Bicentenary of the Assembly Divines* (Edinburgh: Kennedy, 1843), 97,

76 Robert Dabney, "Doctrinal Contents of Confession: Its Fundamental and Regulative Ideas, and the Necessity and Value of Creeds", 112, 113.

77 Samuel Logan, "The Context and Work of the Assembly", 46.

78 Wayne Spear, *"The Westminster Confession of Faith and Holy Scripture" in To Glorify and Enjoy God: A Commemoration of the 350th Anniversary of the Westminster Assembly* (Edinburgh: Banner of Truth, 1994), 100.

今日の韓国教会に、改革神学を強調する教団があります。彼らは、ウェストミンスター信仰告白書を受け入れると語ります。しかし、そのような教団の中で一部は、普遍主義の影響を受けて1903年改定されたウェストミンスター信仰告白書を使っています。つまり、改革神学の明確な範疇を理解できないのです。さらに今日、韓国教会はアルミニウス主義、道徳律廃棄論主義が流行っているのに、それらが誤りだと述べる神学者は、ほとんどいません。このような誤りが教会の敬虔を崩し、効果についての神学的な認識もありません。勿論、アメリカの場合にはマイケル・ホートン (Michael Horton) や、デビッド・ウェルズ (David Wells) と同じような神学者たちが、アルミニウス主義と道徳律廃棄論主義が誤りであるとはっきり語っています。⁸⁰

韓国のこのような状況は、教会が教理について無関心にさせてしまい、信者も教理について無知になりました。それで結局、救いの道理について良く分からない信者が多くなっています。トーマス・マントン (Thomas Manton) が指摘した、ウェストミンスター信仰告白書作成当時の英国国教会と同じ状況です。⁸¹このような霊的無知を目覚めさせ、間違った神学、あるいは、誤りについて分別力を持たせるウェストミンスター信仰告白書は、韓国教会に真に有用な道具となります

79 John Murray, "The Importance and Relevance of the Westminster Confession of Faith" in *Collected Writings of John Murray*, Vol 1: The Claims of Truth, (Edinburgh: Banner of Truth, 1976), 316-322.

80 Michael Horton, "Evangelical Arminians", *Modern Reformation* 1 (1992): 16; David Wells, *Above All Earthly Powers: Christ in a Postmodern World* (Grand Rapids: Eerdmans, 2005), 284.

81 Thomas Manton, Mr. Thomas Manton's Epistle to the Reader in *The Confession of Faith, Larger and Shorter Catechisms* (Edinburgh: Alex, 1773), 8-11.